

やさしく かしく 元気よく



松原小だより



松小 HP
毎日更新中!

〒365-0043 鴻巣市原馬室2425番地

TEL: 048-542-8450 <https://matubara-e-konosu.edumap.jp/>

児童数 431名(令和8年1月30日現在)

2月号

当たり前の繰り返し

校長 寺島 麗王馬

松原小には朝、通学路に立っていると、必ずこちらの目を見て、「おはようございます」と気持ちのよいあいさつをしてくれる子がいます。また、昇降口の下駄箱の靴をいつも綺麗に揃えている子、給食を食べる前に手を合わせて、しっかりと「いただきます」をしている子がいます。

そんなこと当たり前だろうと思われがちですが、決してそうではありません。朝のあいさつがここまでできる子は多く見て3~4割ですし、「いただきます」の音が聞こえないまま、箸が動き出す子もあちこちで見かけます。

それでも日々見ていると、私はこのような「当たり前ができていいる」松原っ子は多いと感じています。それは、以下のデータ(R7埼玉県学力・学習状況調査<質問調査>のうち「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合)からも、子どもたち自身の高い自己評価として見て取ることができます。



	あいさつ	靴そろえ	整理整頓
県平均5年	82.0%	80.7%	78.1%
松原小5年	91.8%	91.8%	80.3%
県平均6年	84.5%	87.4%	80.2%
松原小6年	89.2%	95.4%	83.1%

それはなぜなのか？私は「家庭で繰り返し教えている」から、が一番の理由だと想像しています。松原小の保護者の皆様は、お会いしたときに、「こんにちは」と気持ちのよい挨拶をしてくださる方がほとんどです。そしてお子さんが傍らにいる場合、「ほら、先生にしっかりあいさつして」と声を掛けてくれています。きっとそのような“当たり前の繰り返し”を小さい頃からやられているのでしょう。

以前(別の学校での話ですが)、ある保護者の方から「そういうのって学校で指導してくれるんですよね?」と言われたことがありました。稀なケースだと理解しつつも「え?」とってしまいました。もちろん学校でもあいさつ指導はしますし、給食指導や清掃指導も日々行っていますが、「本来、子どもが小さいうちに親が教えるものですよ」と、言葉が喉から出かかったのを覚えています。

当たり前のことを子どもに繰り返し教える、そして当たり前ができるようにする。これは子どもが小さいときにしかできません。そして、あいさつをする、靴を揃える、いただきますをしっかりと言うなど当たり前のことを繰り返し教えられた子は、地道な努力が苦になりにくく、継続が力になることを覚えます。例えば、自主学習に毎日取り組んだり、サッカーのリフティングを時間も忘れて練習したり、ピアノが思ったように弾けるまで鍵盤に向かっていたり・・・、そして気づくと“続けている自分”や“続けられる自分”に小さな自信や誇りを持つようになります。これは、将来、自分の夢を叶えるための努力や、力を伸ばすための集中力・継続力につながる「種」や「芽」になっていくはずで。

人としての根っこや素地の部分は急に育つものではありません。教える側にすれば手間はかかるし、うるさがられることだってあるわけです。それでも松原っ子が将来、自分で道を切り拓いていく力を、幼少期の“当たり前の繰り返し”で付けてあげたい、と思っています。